

県民の声無視して再稼働容認した花角知事を怒りの包围

花角知事は21日緊急記者会見を行い、「柏崎刈羽原子力発電所6号炉及び7号炉の再稼働の



2025年12月議会審議日程

	曜	会議	場所	備考
12月4日	木	本会議	議場	議案提案・総括質疑
12月5日	金	農政建設委員会	第一委員会室	付託案件の審査
12月8日	月	文教経済委員会	第一委員会室	付託案件の審査 (上野議員担当)
12月9日	火	厚生委員会	第一委員会室	付託案件の審査 (平良木議員担当)
12月10日	水	総務委員会	第一委員会室	付託案件の審査 (橋爪議員担当)
12月11日	木	一般質問	議場	(各議員の質問日は 追ってご案内 いたします)
12月12日	金	一般質問	議場	
12月15日	月	一般質問	議場	
12月16日	火	一般質問	議場	
12月18日	木	本会議	議場	議案採決など

日本共産党上越市議員団ニュース

No.889 2025年11月30日

連絡 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
先達 平良木哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷))
(事務局長) 山本信子 090-4967-0367 (仲町2(高田))
ホームページ <https://jcphotsugindan.webnode.jp/>

方針への理解要請について了解する」と発表しました。

これは、夏に自らが行った県民意識調査で、6割の人が「現時点では再稼働の条件は整っていない」と回答していることを無視する暴挙です。

花角知事は、この日の会見で、「6号炉及び7号炉が同時に事故を起こすという最も厳しい条件でも、避難計画

通り避難できれば、基準

を上回る被ばくを避けることができる」などと都合のよい理屈を並べていますが、これは新たな「安全神話」にすぎません。しかも、避難さえできれば良しとするだけで、その後の暮らしをどう取り戻すかには触れていません。

この暴挙に対して25日、怒りに燃えた県民約1,200人が県庁と県議会を“人間の鎖”で取り囲み、判断の撤回を強く求めました。

上越市からも、橋爪議員をはじめ約60人が参加し、思いをぶつけました。

知事に再考求めよ

新市長に申し入れ

小菅新市長は、柏崎刈羽原発の再稼働に関する市民団体の要望に対して、「知事の判断を尊重」という姿勢をしました。これでは市民の安全は守れません。

そこで、日本共産党議員団は25日、小菅市長に対して次の4点を緊急に申し入れました。

- ◇ 市長として、柏崎刈羽原発再稼働に対する明確な立場を示すこと。
- ◇ 市民が被る重大なリスクを市独自に評価し、その内容を市民に説明すること。
- ◇ 知事に対し、再稼働容認判断の撤回・再考を求める申し入れを公式に行うこと。
- ◇ 県民が直接意思を示す県民投票の実施など、民主的な手続きを県に求めること。



除外主義とは何か、どう闘うか

「外国人犯罪、凶悪犯罪が増加している」…は本当か？

神谷宗幣代表は、7月3日の参院選告示日に「いい仕事に就けなかった外国人の方が集団をつくって万引きとかやって、大きな犯罪が生まれている」と述べました。また、同党の吉川里奈衆議院議員は、「外国人犯罪、重要犯罪が増加し

人口は増えています。一方、刑法犯で検挙された数を比べてみると、2004年が1万4765人、2023年が9726人ということですので、34%減少しています。

人口は2倍に増えたのに、刑法犯で検挙された数は、むしろ減っているということですから、犯罪率としたら激減しているということが言えます。

「凶悪犯(殺人、強盗、放火、不同意性交)は増えている」という方がいます。確かに、2014年が247人で2023年は361人になっていますので、この期間で約1.5倍に増えています。しかし、この期間の外国人の数は1.6倍に増えていますから、人口比では減っています。つまり、外国人犯

罪が激増したということはありません。

ですから、外国人が増えたから、どんどん犯罪が増加しているというのは事実とは言えないということではないでしょうか。まさに、根拠のないデマで、差別を扇動していると思います。

(続く)

外国人人口(短期滞在者含む)

2004年	197万人
2023年	377万人

約2倍

一方

刑法犯で検挙された外国人は、
2004年 14,766人
2023年 9,726人 34%減

凶悪犯で検挙された外国人は

2014年	247人
2023年	361人

約1.5倍

しかし、この間に在留外国人は1.6倍に増加